

令和7年第2回今治市子ども・子育て会議概要

1 日時

令和8年3月26日(木) 13時30分から15時30分

2 会場

今治市役所第2別館 11階 特別会議室1号

3 議題

今治市こども計画(第5章個別計画 1子ども・子育て支援事業計画)の見直しについて

4 報告

施設選定部会について

教育・保育部会について

5 出席者

【委員】15名

泉浩徳委員、青井努委員、村越由美子委員、山川博一委員、龍田三津子委員、越智瑞啓委員、増田茂樹委員、杉山恵子委員、長尾正人委員、羽藤公一委員、矢野信子委員、風本崇委員、田窪良子委員、小林祐太委員、森万希委員

【事務局】21名

こども未来部長、こども未来政策局長、福祉政策課長、障がい福祉課長
生活支援課長、健康推進課長、こども未来課長、ネウボラ政策課長、ネウボラ政策課主幹、
保育幼稚園課長、教育委員会事務局次長兼学校教育課長、生涯学習課長
こども未来課長補佐、ネウボラ政策課長補佐3名、保育幼稚園課長補佐2名、
保育幼稚園課企画係長、ネウボラ政策課ネウボラ拠点施設推進係主査、
ネウボラ政策係長

6 欠席者

【委員】3名

小池由貴委員、丸山達也委員、梶原淳一委員

7 会議内容

事務局	<p>当会議の開会</p> <p>委員及び事務局職員の紹介</p>
会 長	<p>会長副会長の選出</p>
事務局	<p>議事録署名委員に田窪委員を指名</p> <p>委員 18名のうち 15名が出席。3名が欠席。今治市子ども子育て会議条例第7条第2項の要件を満たしており、会は成立する旨報告。</p> <p>議事録署名委員に梶原委員を指名。</p> <p>議題 今治市こども計画の見直しについて事務局に説明を求める。</p> <p>資料1により説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育保育、保育の量の見込み及び提供体制 ・乳児等通園支援について ・利用者支援事業妊婦等包括支援事業型について <p>菊間保育所と宮窪認定こども園の閉園に伴う量の見込みと提供体制の見直し、子ども子育て支援法改正に伴う新規事業について、計画への記載が可能となったため見直しを実施することについて説明。</p>
田窪委員	<p>一時預かりやこども誰でも通園は、3月4月は園の行事等で預かりが難しいと聞いた。保育士不足もあると聞いている。季節的な保育士の補充などはできないか。</p>
事務局	<p>保育士の配置は、4月当初に来た今年度のこどもの活動を予定した中での、配置基準で割り当てており季節的な雇用は難しいが、保育士確保については不足があればその都度募集を行ってる。確保策、補助制度等々もつくりながら、確保に努めて、できる限り対応していきたい。</p> <p>今治市こども計画の見直しについて承認される。</p>
会 長	<p>報告について説明を求める。</p>
事務局	<p>報告資料に基づき、令和7年12月16日(火)に開催した施設選定部会について、令和8年3月17日(火)に開催した教育・保育部会について報告する。</p>
会 長	<p>その他に進み質問意見等を求める。</p>

	報告については質問・意見なし
会 長	その他意見を求める。
村越委員	地域の少子化について、産科の減少について心配している。
事務局	今の出生数であれば、県病院ときら病院の2つで今のところ、市内でも分娩は可能と考えていることを説明。
山川委員	学校の現状、ネウボラ政策課との連携の好事例、発達支援センターの充実について意見。
龍田委員	小児科の減少と少子化について地域の現状について意見。
越智委員	伴走型支援の必要性と支援が必要な子どもが増えていることについて。
増田委員	子ども子育て支援事業計画の量の見込みについて、記載方法の工夫を提案。
事務局	今後の課題として検討する。
杉山委員	母子家庭の支援について
長尾委員	PTA の立場からネウボラ拠点施設が少子化対策に資するような施設になることを期待する。
羽藤委員	地区の少子化の現状と相談の場の必要性について。
矢野委員	障がい児支援の現状について。
風本委員	図書館や公民館の子どもたちの利用について、またネウボラ拠点施設が、現在、将来の子どもたちに使いやすい施設となってほしい。
田窪委員	今治市全体で子どもが少ない、生まれてないので、産婦人科・小児科が少なくなっている。子どもの調子が悪いときにちゃんと診れるよう医療体制は整えたい。今治は住みたい田舎ランキングで4冠とったが、実際に移住した人がここで子育てしていてよかったと思えるようにしたい。
事務局	越智委員お願いします。
越智委員	はい。 よく最近耳にするのが、子育て支援という名のもと、国もそうですけど、お金

を配ったらなんか支援で終わってる、というね。要はやりっ放しという話をよく耳にします。特に今回、今治市のネウボラ政策のことで、施設を建てたりとかっていうのも、何か箱物をつくるだけみたいに思われてる。やっぱり、世の中の皆さんの考えていうのが出てくるのかしら。

3月の市議会でもそういう話が出て、私が結構前からこの話を進めてた割には、市議会の先生方にも理解されてない方がおられるんだなあとすごく悲しく思ったことがあります。で、私がこの話を、伴走支援っていうのは、何かかわいそうだからしてあげてるっていうふうに思われてる方がいるんじゃないかなと思うんですが。

先ほど山川先生が言われた、学校が入っていけない領域っていうところですね、間違ってることを、やっぱり間違ってるって言わないといけない。

こどもの出生数、今治市は去年600人台でしたね。どんどん減っていったときに、子どもたちを取り巻く環境っていうのは、かわいそうだから助けてあげなきゃいけないから、だけで、何か物をあげるみたいな感じで考えていらっしゃる人もいます。

実は、毎年何人かの方にお話したことがあるんですが、毎年大学のサークルの寄りが箱根町でありましてね。箱根町の町会議員がおりまして、やるんですけどその中に、大学の後輩が、北海道の家庭学校の職員をしましてね。こちらで言えば、愛媛学園のようなところですね、それを民間の施設がやってるんですが、そこでお子さんを預かるのに、家庭状況を調べたら、社会的に立派なご家庭で生まれているのに、こどもがはじめてしまったっていう事例を聞きました。指導員がいうには、河上で、それを止めてもらわないと中学校高校になってから助けてくれるのは遅いんですよ。河上っていうのは、この乳幼児、幼児保育のこの時期じゃないかなと思います。

今、今治市さんは、市民の真ん中の前にこどもが真ん中っていうのはすごく謳ってくださって、ネウボラ政策で、これだけ力を入れてくださっているんで、私はその河上である、今日参加している皆さんは、そういう関係者ばかりだと思いますので、もう一度伴走支援というのは、支援するっていうのは、恵まれてないからするのではない、ということを知ってほしい。

後輩が言ってました。支援が必要な子は、何かお金がないおうちの方が多いと思うでしょ。そうじゃないんですよ実は経済的に恵まれてる家庭のお子さんも多いんです。ということをよく言ってました。それをこの会で、前から量の拡充の話をつつもしてるんですが、質の拡充について、何とか立ち上げてもらえたらありがたいなと思っております。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

会 長

ありがとうございます。そしたら、増田委員

増田委員

はい。

	<p>今回初めて参加して報告の内容とかお伺いしてたんですけども、こどもの数とか、統計に基づいて、数字が決まってくるものは理解できるんですが先ほど、必要な、今日、教師というか保育園の先生の手数は、小数点がなんぼだから繰り上げて1名だとか、あと、ですね。</p> <p>妊婦の方の相談の件数。大体1980人っていうのも、600何人生まれててそれで3回することで1980なんだよっていう説明を聞いて理解なんですけど、逆にそのロジックが隠れていると、どうという根拠でこの数字が出てきたのかな。</p> <p>わからなかったんで、何か注釈か何か入れて、この数字はこういうことに基づいて算出されていますとか、余裕のある人員確保を行ってますみたいなことを書いていただけると、よりわかりやすいんじゃないかなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>記載方法を、少し変えていただくということで。</p>
事務局	<p>今後の課題とさせていただきます。</p>
杉山委員	<p>私の会は、母親とこどもの家庭の会です。</p> <p>父親がいなかったらどういうふうになるのかなっていうのが心配なところだったんですけど私のこどものことで申しますと下がまだ1歳になってない、上の子が3歳ぐらいのときに、母子家庭になったんですけど、学校の先生がすごく親身になって、相談にも乗っていただいたので、安心して学校にいったと思います。</p> <p>これからもよろしくお願いします。</p>
会長	<p>長尾委員さん、お願いします。</p>
長尾委員	<p>はい。</p> <p>私の所属する会はPTAですので小中学校の保護者の方が多いんですけども今日のところでも保育園等々が統合で無くなったという話があります。</p> <p>また、小中学校におきましてはですねやっぱり人数が少ないということで学校の統廃合、が進んでるといって、何年かに1回そういう計画っていうのは、検討しなくちゃいけないということで進んでる状況になっています。かといって、何ていうんですかね。周りを見ると、住宅がものすごく増えてる、こどもが減ってるのに住宅ばかりいっぱい建っていつてる状況なので、これが続いていくと、当然住宅は空き家になって、荒廃していつて、悪循環になっていく心配があるので。</p> <p>今後考えられてるネウボラ拠点施設があると思いますけれども、それが本当に、市民の皆さんが、理解して利用がよくできるような、よく回っていく事によって、全国的には、少子化の中でも今治は、横ばいか、ちょっと上がってるような状況になるように、今治市の課を跨いでいろいろな検討をしていく必要があるのかなと思います。</p> <p>今計画されてることが、市民の皆さんに理解されて、よりよく利用されることを本当に切に願っております。</p>

	以上です。
会 長	ありがとうございました。羽藤委員よろしく申し上げます。
羽藤委員	<p>失礼します。児童クラブの方から見ますと、一時期は待機児童もあって、けど、もう最近ではもう、待機児童がゼロになってったという感じで推移はしてません。</p> <p>それと、今日の説明を、お聞きして、1つはショックを受けました。1つは、明るくなりました。</p> <p>まずショック増えたっていうのは、やはり私、今治に生まれて、もっともっと近所でこどもの声が聞こえたんですよ。もちろんこどもの数をふやすっていうのは、今治市のレベルを超えて、国の方になりますけれども。今あるこどもを、いかに家庭も含めて、トラブルなく、要するに精神的にやむことなく、楽しく育てられるんだよっていうのを、ある家庭が経験したら、その下の世代もこうすれば、楽しく子育てできるよねっていうふうな、そういう専門部といますか、相談窓口といますか、相談員をふやすのも大事なんだけど、もっともっとPRを。</p> <p>立花で言えば、カルチャーセンターに、そういった1歳とか3歳のこどもと保護者に来ていただいて、一緒に遊びましょう、いろんな相談をしましょうっていうのがあるんです。やはり、先ほどおっしゃってましたけども、お金を出して終わり、とか箱を作って終わりではなくて、恒久的に、何でもいいから相談できる窓口っていうのも、設けていただけたら、今後子育てに関わる、若い、ご夫婦の方のお悩みが少しでも減るんじゃないかなと考えております。</p> <p>以上です。</p>
会 長	ありがとうございました。矢野委員お願いします。
矢野委員	<p>はい。</p> <p>私どもの会員は、障がいのあるこどもの保護者ですので、山川先生がおっしゃったように、今、学校関係では、こどもがすごく減ってるのですけれども、その中で、障がいのあるこども、通級だったり、支援級のこどもの数は、毎年増えております。今現在、小中学校、学齢期のこどもさんで、大体530名という数は聞いております。生活支援員の先生をどんどんふやしていかないと、追いつかない状況だっということも聞いております。</p> <p>こどもを取り巻く環境は、すごく今治市が良くなってきているんですけど、また、障がいのある子ほど、環境ですよ。障がい児の通園施設だったり、放課後等デイサービスだったり、本当に良くなってきていると思うんですけど。</p> <p>また、現在は大学に進学された後、今治に残るこどもさんが減ってるから今治市で結婚される方が少ないのではと感じます。今治で、就労できる企業さんが少ない。少ないって言ったら語弊があるかもわからないけど、就労できるように、もっと企業のことを良く伝えた方が、いいのではと思います。こどもの数っていうことだけではないのでは、と思っております。</p>

	<p>私どもの会も本当に毎年毎年、会員数は増えております。さっき申し上げたように、こどもさんが、減ってきているんだけど障がいがあるこどもが増えていることを皆さんに知っていただきたいと思ってこの場を借りて、お話させていただきました。またこの後も障がいのあるこどもたちが、地域で幸せに生活できるように、皆さん、支援の方、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>風本委員</p>
<p>風本委員</p>	<p>私の方から、ずっと思ってたことがあります。経営者としてやってる中で経営者仲間同士で話しているときに、10年前1000人を超えていたこどもが今、600人台までに減ってる。これ企業でいうたら倒産だと思うんです。</p> <p>これだけ売り上げが下がったって考えた場合に、市として対策はいろいろ打っていただいているのはすごく理解はしてるんですけども結果が伴ってないのに、再び費用を使うっていうのは、これちょっとやり方が間違ってるのかどうかっていうのも別の問題として、すごく問題視されるべきことだと思っています。ちょっと発想を変えるとか。今までと同じことでは多分通用しないと思うんで、そのあたりをちょっと考えていただくようなきっかけになればいいかなと思っています。</p> <p>こどもが減ってるってことは、建物とか、施設とかも残るわけで、こどもの満足度は上がらないといけないはずなのが、どんどん下がっていったような気もして、公園とかの使い方もボールが使えないとか最近では大きな声を出したらいけないとか、近隣の方との関係性もあると思うんで、致し方ないところもあるのですが、対策を何か取れないかなって思うところもあります。</p> <p>私も今、日吉中学校の学校運営協議会の方のもらせていただいている中で、公民館の方も一緒に出席いただいて、お話する機会あるんですけども、そういう環境の中でこどもたちが今度、集い学ぶ場所として、図書館とかそういうところ使う機会、熱中症対策とかで暑いんで、図書館などを使う子たちも増えてると思うんですが、図書館の席数が限られてたりとか、学ぶ場所とはちょっと違うところがあって、使いにくい。中学生とかであればハーバリーがあるけども、やはり近隣の方の関係性があるって使いにくい。じゃあ、僕たちの学校運営協議会が提案した公民館を使ったらどうかっていうので公民館の方も、賛同していただいて、開放してくれる日程を教えていただいたりとか、いろいろ努力はしてくれてるんですけども、やっぱり使える内容が昭和から変わってない。今のこどもたちが、学ぶことに使う環境が整ってないように感じます。</p> <p>だから、ネウボラ拠点施設はこの後できてくると思うんですけど、同じようなことであれば、こどもたちが使いにくいと思うんです。そういう今の子供たちが学ぶ形態、今プログラミングであったりとか、パソコンを使って何かしているこどもたちが使える施設、未来を見据えた上で、こどもたちが成長できるものをこの中に取り込んでいかないと、使うこどもの数が減ってくると思うんで。昭和生まれの親が満足するような施設を考えてたのはいいようにはならないかなと思いました。</p>

	一言だけ、言わせていただきました。以上です。
会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ネウボラ拠点施設に対応してご意見いただいてありがとうございます。</p> <p>はい、田窪委員どうぞ。</p>
田窪委員	<p>先ほどもちょっとお話させていただきましたが、活動している場所が昔の保育所を再活用して使っているところなので、地域の方がぶらっと来てくれたり、行政の方もちょっと様子見に来てくれたり、もちろん利用されてるお子さんとか保護者さんとか、いろんな年齢層、幅広くいらっしゃってくれるんです。交流の場所として、広報していることもあって、先日、移住の方で、なおかつ、お母さんは日本人、お父さんは海外の方先月、こちらの方に伯方町の方に来たけど、日本で過ごしたのは1年間、という方が来られました。私も経験なかったんですが、指定難病のある方でした。人との交流の場所って本当いろんな人が来るんだなと思いつつ、いろんな人が来てもらった先に、これをどうつなげてその人の生活を豊かにするかって考えるときに、越智委員がおっしゃったように、支援者の質って上げなきゃいけないなと感じました。</p> <p>とつても反省するところと、あと本当にいろんな、この方のケースだけで、多分、移住とか国際交流協会とか障がい福祉課とか、いろんなところのお力を、いただきながら、その方の生活の、質を上げていくっていうことをしなきゃいけないんだなって思いました。</p> <p>ただ私が話していることって、島しょ部の話でかなりのレアケースで、ニーズとしては少ないと思うんです。広く浅くカバーしていかなきゃいけないのが、島しょ部であって、陸地部とも、島しょ部の中だけでも、地域の特性っていうのは全く違うので、個々に合わせて、いろんな対応ができるっていうのが今治市とか、島しょ部のよさであったらいいなと思っています。</p> <p>今後とも、今治市の施策に期待しています。よろしくお願いします。</p>
会 長	はい、ありがとうございます。公募委員、森さんお願いします。
森委員	<p>私にとってはちょっと難しいお話もあって、理解が追い付かない部分もあって、感想もいろいろあるんですけども。まず、これだけたくさんの方が私たちのこどもたちのためにいろんな考えを考えてくださっていることがわかってすごく心強く思いました。</p> <p>最初に、保育士さんの確保について、うちも今日、一時保育でこどもを預かってもらってるんですけども、1ヶ月前から探し始めたんですけどやっぱり3月4月は、なかなか卒業式などの行事で難しい。なかなかちょっと見ることができないよっていうふうに言われることが多くて10件ぐらいこどもを預かってくれませんかというふうに電話をしました。本当は保育士さんとか、タイミーとかが利用できたら、気軽に募集もできるんだらうなと思うんですけども、なかなかそれも難しいのかなというふうに感じます。また、待機児童について、十分足りてるっていうお話もあったんですけども、実際に支援センターとかで、お母さん</p>

たちとお話していると、やっぱりなかなか人気のところに入れなくて、待機して
る状態ですって言われたりとか。本当は学校入学前まで、行ける保育園に入れた
いんだけどそれができないから、まずは2歳まで預かってくれるところに行って
そこからまた保活をやり直して、保育園入りますよっていうお母さんがいたりだ
とか、聞きます。

ここで足りてるっていうふうに言われるのは、選ばなければ、足りてるのかな
っていうふうに感じました。もうちょっと、保護者の側から選べる環境があつた
らありがたいなっていうふうに思います。

さっき、小児科や産科が少ないというお話もお聞きして、実際に私は2歳前の
こどもがいるんですけども。一番困っているのか小児救急で診てもらえる機会
がちょっと少ない、高熱が出たり、けがをして小児救急の方、受診しようと思っ
て電話をしても、小児科の先生がいないので見られませんっていうふうに、よく
言われたり、あらかじめ電話していると断られるので、飛び入りで行ってみた
ら、もう、小児科の先生今ちょっとで遅れてるので見られないのというので成
人の先生が診てくださって、でも話だけで、こどものことを、ちゃんと見てもら
えず、こどもを守ってくれるのかなって悲しく思うことが結構たくさんあったの
で、そこら辺の改善があれば、とてもありがたいなっていうふうに思います。

はい。あと、私今玉川町の方に進んでるんですけども、ここで言うてお願いし
ていいのかわからないことがんですけど、玉川は、バスが廃線になったっていう
ことで、スクールバスが代わりになるって聞いたんですけど、それも中学生まで
っていうふうに聞いています。スクールバスは高校生以上になると使えないって
いうふうにお聞きしているんですけど、将来私は、ダムの近くにある夫の実家
に、引っ越そうかなというふうに思ってるんですけど、ダムの近くは、大きい車
がたくさん通って、事故もたくさんあるようなところなので、自転車で高校が通
うのはなかなかちょっと不安なところが大きいかなと、今から心配してます。毎
日学校まで送り迎えしなきゃいけないのかなと思ってますが、そこら辺の支援な
んかも考えていただけたらとてもありがたいと思います。

最後にですね3年前に私今治の方に来て、まずは、不妊治療の助成金のことか
らネウボラの方にはすごくお世話になっていてですね、それ以後、こどもが生ま
れてからも、いろんなイベントを開催してもらったりとか、ネウボラ政策課の
方、何人か私の名前、こどもの名前かを覚えてくださってる方も結構いらっし
ゃって声かけてくださって、よそから来たんですけど、すごくひとりじゃないな
っていうふうに、心強く思ってます。

とても身近に、感じられる関わり方をしてくださって、とても感謝していま
す。これからもよろしくお願ひします。

会 長

それでは、小林委員。

小林委員

私は昨日、長男が、1年生の終業式終わって、今日から春休み入ってるって
いうところで、めちゃくちゃ今ほっとしているのが半分あります。毎日6時にこど

もを起こして、30分以上歩くので送り出してっていうのをやってるんですけど、それでほっとしたのが半分。逆に言うと今ちょっとマザーズさんって児童クラブの方に見てもらってるんですけど、春休みは仕事との兼ね合いであったりとか、休みの時期は学校の時期と違う問題が家庭内で巻き起こるといふか、今ほっとしつつ、違う新しい課題にも向き合いつつというところで、日々過ごしています。今年度は上の子が小学校で下の子が保育園っていうので、どっちもやらないといけない。結構大変だったんですけど、4月からは2人とも小学校になるので、そういう意味でちょっと気持ち的には楽なのかもみたいな、淡い期待もしつつ、そんな心境で、子育てをしています。

先ほど森さんのお話もすごく、いろいろ聞きながらちょっと自分の過去のもっとこどもが小さかったころの、育児のこととかを思い出しながら、聞かせていただいたんですけど、人によって、好ましいの政策であったりとか制度であったりとか、何が一番ささるのか、響くのかって、結構人によって違うっていうのを改めて感じたりしていたところです。

私の場合でいくと妻の実家が玉川の方なんですけど、今住んでるところから10分掛からないぐらいのところまで車で連れていけたりする距離で、子育てを手伝ってくれる環境があるっていう。たより先があることで、なんかすごく安心感があったりとか、繋がりがどれだけあるか、とかによって制度であったり、自治体の方々に協力してもらいたいところって結構変わるんだろうなと思っていて、私自身Uターンになったのは、首都圏で、当時コロナ禍だったんですけど、もう、アパートに監禁生活みたいなのをしていたので、そういう中で、これから子育てが本格的なタイミングになるんだったら、やっぱり親元で頼れるところいいよねっていうところで、今治に帰ってくる話になったんですけど、個々人でいろんな背景というか、条件というか制約もすごく、まちまちだったりするので、いろいろな声を聞ける場があるということは、何かすごく重要なんだっていうのを今日、参加しながら感じたところでございます。

一応私は家事とか、家のことをかなりやってる方ではあるんですけど、何かそういう、男性の家庭進出みたいな側面から子育ての環境をより良くしていくことが、必要な部分だったりするのかなあということも含めて今後お話をしていけたらいいのかなと思ったりしています。

私自身は自分で会社を立ち上げて夫婦でやってたりするので、かなりちょっと多分、めちゃめちゃイレギュラーケースなので、参考にならないところも多分めちゃくちゃあるんだろうなとは思っています。今大西に住んでいるので、周りには造船業で旦那さんが働いて、奥さんが主婦されたりとかちょっとパートされるみたいな、方々がすごい多いエリアですので、何か自分がスタンダードではないみたいなことを日々認識しているんですけど、その中で何かヒントになることとかがあったら、何かお話できたらいいのかなと思いました。

ありがとうございます。

会 長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>青井先生。いろいろ小児科のとか、ご意見をお願いします。</p>
青井委員	<p>皆さんの厳しいご指摘をいただきながら、長期間小児科部会長させて頂いてるんですけど、確かに、おそらく、ご迷惑をおかけしてるんじゃないかと。</p> <p>今、小児科の4件しかないんです、私が91年に開業して、35年なんですけど、地元今治出身なんです、ここに帰ってきたときにはですね、一番若くて、そのときに、小児科の数が十二、三件あったんです。患者さんがどこに行こうか選べた時代です。35年前ですね、だんだん減ってきて特にコロナを契機に閉院するとか増えて、結局今4件しかなくて、あと総合病院が済生会さんと県病院にありますが、県病院さんは、紹介がないと受けれないということで、普通の一見の人は見てくれないというふうな状況ですので、小児科の4件もですね、結構高齢化も進んでいて、私も70ですし、他の先生方も50代後半ということで、じゃあ地域の開院が増えるのかって言わうと、松山は増えるんですね。</p> <p>どうしてかなっていうんで、やっぱり松山に住みたいっていう、子育てしてるお医者さんはやっぱり松山に住みたいというふうな傾向があって松山は軽症なんかもちっと見られる。新しいところが増えて。今治で声掛けてみるんですけど、やっぱりしたいって人がまずない。</p> <p>それともう1つはですね、やっぱり看護師の確保ができないんですよ。</p> <p>今日、救急の話もありましたけど、時間外は、病院さんの方が、多分、たまたま小児科がない、輪番病院に当たったんだと思うんですけど、小児科があるところが済生、県立今治さんが週のうち2回入ってくるんですけど残りは、小児科がないんですよ。夜間救急の場合。ただ日曜日は僕たち実は開けてるんです。それぞれの病院を。市民病院さんと4件と、日曜日の時間帯は空けて、2ヶ月に1回づつ。小児救急、輪番でやっているんですけど。</p> <p>ところが、それやるとですね、日曜日、うちのスタッフに来てもらわなきゃいけないんですけど、それやると日曜日やるよと、言うんですけど、看護師さんが応募してこないんですよ。そんなのもあって、すごくの人員確保が厳しいというようなことからだんだんとこの、本当に皆さん多分問題抱えてると思うんですけど。</p> <p>小児科が本当手薄になって、非常に弱くなってる形で、産婦人科さんの話も出ましたけど産婦人科の方も私が開業したころは、五、六件あったんです。どんどん少なくなって、今、吉良先生とか、県病院だけです。ただ県病院さんに産婦人科の先生が、4人ほど徳島大学から来てるので、ある程度、多分出産数が今くらいであれば、今の状況で賄えると思うんですけど。ただ、開業医さんに関しては、多分おそらく同じような状況で増えるのはちょっと難しいと。なかなか増えないってというのが、そういう事情で皆さん、そこのところはわかっていただきたいなと思います。</p> <p>できるだけ、少ない人数でも、頑張っていきますのでこういう意見、小児科の</p>

中でもまたご意見があったよってということで、話をするようにします。

あとやはり先生からも話がありましたけど、上流、河上で、やはり、きちっと止めないと、だんだん年齢が上がって行って、いろんな問題を起こしても、もう遅いんじゃないのかと。でも、乳幼児期が一番重要。私もそう思います。

うちは病児保育もしているんで保育士さんも受け入れてるんですけども。公立保育所さんも多分、スタッフが少ない。募集しても来ないんですけど、やはり、今、私ができることはですね、少子化対策は多分複合的でいろんなものがないといけない。お金だけじゃないんでしょうけど。僕らができることは元気に生まれた子をいかに健全に育てるか。そのときに多分乳幼児のときの保育。働いてるお母さんがすごく多いので、0、1歳のところの保育の質をしっかり担保する。そういうふうな何か対策をですね、保育士さんを養成するような、講習会するとかですね勉強会をするとか、そういうことをしない限りですね、ただ頭数があった、ただ見てますじゃなかなか現状、私は健全な子は育たないと思うんです。お母さんも多分、初めてのことです。どもができて初めての経験なんですよ。

30年間見てたら感じるのは、やっぱり頭で育児をしてる感じが最近する。手元にいつもスマホがありますから、スマホ見ながらキーワードを入れる。検索窓にですね。例えば泣き止まないとか、熱が出た、と入れたら、何かそこに答えが出てくる、そうじゃなくて実際は0、1歳にはもっと本当に実際その子を観察するとか抱っこするとかさわるとか、目を合わすとかですねそういうところが本当は大切なのに、そっちの方向にいつてしまう。その辺りも、そこはしょうがないとかそういうところはやっぱり、保育所、こども園、0、1歳の、保育の現場の保育士さんの質を何とか上げなければですね、やっぱり、数が増えたからいいじゃなくてやっぱり健全なこどもがきちんと、自立したこどもになっていくためのベースはそこじゃないかな、と。

じゃあ何ができるのかと私はわかりませんが、そのところは、今日の皆さんの話の中にもあったように、何か手を打っていかないと本当に、将来が不安だなと感じます。今回のこういう会で、皆さんの意見に何か提供できることがあればいいかなと思います。質を担保することができればいいと思います。

会 長

ありがとうございます。

養成校としては耳が痛いですけど。市とも連携させていただいて、保育士さんの研修会とか、定期的にさせていただいておりますが、質と言いますとずっと大学で保育担当してたんですが、なかなかこれ研修会だけでは難しいだろうなと思っています。

やっぱり現場の先生にお願いをしなくちゃいけないんですけど、養成校としてはもう、国の方針に従ってですね、保護者に寄り添う、こどもに寄り添う教育というところでやっておりますけど。今の現状見ると卒業しても、何か保育士につくんだけど、3年ぐらいですぐ辞めてしまうとか小規模保育に行きたい、3歳未満の小規模保育に行きたいという学生が多いです。なぜかという、やっぱりそ

	<p>こまでしんどいもしたくなんだろうなというのが正直なところかなと思っています。</p> <p>待遇改善とかやはり休みの数とか、ふやしていかないとなかなか、保育士も、なかなか根付かないのかなという。養成校としてはそう思っております。</p> <p>すいません。いろんなご意見があり、ありがとうございました。多様なご意見ありがとうございます。</p> <p>貴重なご意見いただいたのでぜひまた市も、今後の政策に生かしていただけたらと思います。それでは続きまして次第5 その他について事務局の方からよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>その他 以下について事務局から紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な都市経営について ・しまなみ木のおもちゃ美術館開館について ・いまこそ imabari について ・組織改革について ・ネウボラ拠点施設について
会 長	<p>ありがとうございました。いろいろ、報告もありましたけども。</p> <p>何か他にご意見、ご質問ありますでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>今日は長時間に渡りましたけども、これをもちまして、令和7年度の第2回の会議を開催させていただきます。</p> <p>最後までご協力いただきましてありがとうございました。</p>

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 泉 浩 徳

署名委員 田 窪 良 子
